

南カリフォルニアの盆踊り

—その日系ディアスポラ文化としての特徴—

早稲田 みな子

南カリフォルニア(以下、南加)の盆踊りは、日本で流通している盆踊り歌や歌謡曲の録音を主体とした、いわゆる「録音再生型」盆踊りである。同様の盆踊りは、日本都心部および郊外の新興住宅地でも一般的に見られる。本論は両者を比較することにより、南加の盆踊りが、日系ディアスポラ文化として以下のような特徴を持つことを明らかにした。1) 仏教寺院との密接な結びつき — 日本の「録音再生型」盆踊りは、多くの場合町内会や商店街の主催で行われるが、南加の盆踊りは、ほぼ例外なく仏教寺院の主催で行われる。これは、仏教寺院が日系社会の文化・社会活動の中心として歴史的に機能してきたことによる。2) 盆踊りの仏教的意義の再解釈 — 南加の盆踊りは浄土真宗の寺を中心として行われるが、当宗では精霊の存在を否定しているため、盆踊りの意義は死者の霊の供養ではなく、亡くなった親族や友人を思い出して感謝し、エゴを捨て無になって踊ることである、という新解釈が提唱されている。3) 盆踊りの擬似伝統芸能化 — 日系人の世代交代に伴い、日本文化存続に対する危機感が生まれている南加では、マス・メディアを基盤とする近代的盆踊りが、保存・伝承の対象として、擬似伝統芸能的扱いを受けている。4) 見せる芸能としての盆踊りの洗練化 — 南加の盆踊りは、日系人が他民族に対して日本文化をアピールする手段としても利用されている。そのような政治・外交的役割を与えられた盆踊りは、必然的に見せる芸能として洗練された。5) 日系アメリカ・アイデンティティーの表現としての盆踊り — 三世の台頭とともに、独自のアイデンティティーを表現するための新しい盆踊りが創作された。このように、一見日本の「録音再生型」盆踊りと類似していると思われる南加の盆踊りは、日系アメリカ人の境遇と経験に適応すべく変容し、ディアスポラ文化としての新しい機能・意義・特徴を持つに至っている。